

赤煉瓦倶楽部舞鶴										赤煉瓦倶楽部舞鶴 会報									
										発行人／会 長 吉 岡 博 之									
										編集人／ 小 野 章									
										〒625-0062 舞鶴市森 973 番地の 1									
会報 119号 令和4年(2022年) 7月15日										FAX/0773-63-9764									
										E-mail brick7388@yahoo.co.jp									
「赤煉瓦倶楽部舞鶴」ホームページ										http://www.redbrick.jp/									

目 次

1. 令和4年度通常総会報告	4. 木造の正教会建築の系譜
2. 海軍時代の舞鶴古写真展(その2)開催報告	5. まいづる海軍がっこうぐらし!(第3回)
3. 赤煉瓦倶楽部舞鶴の京都視察旅行報告	6. 会費納入のお願い
	編集後記

1. 令和4年度通常総会報告	会長 吉岡博之
----------------	---------

令和4年5月15日(日)、令和4年度赤煉瓦倶楽部舞鶴の通常総会を開催しました。以下、4議案を審議し全員異議なく承認されましたので、その概要を報告します。

第1号議案 令和3年度事業報告 (会報で主な事業は報告済みのため省略します)

第2号議案 令和3年度決算報告 以下の通りです。

収入の部

科 目	金 額 (円)	備 考
1 会費収入	45,000	個人42名、次年度前納含む
2 事業収入	582,920	海軍レシビ販売等
3 寄付金収入	35,850	寄付金、募金
4 雑収入	506	受取利息等
当期収入合計	664,276	
前期繰越正味財産額	0	
収入合計(B)	664,276	

支出の部

科 目	金 額 (円)	備 考
1 事業費	147,641	古写真展、30年展、DVD製作等
2 管理費	216,580	旅費交通費、会報印刷費等
—	—	—
—	—	—
当期支出合計(C)	364,221	
当期支出差額	300,055	(A)-(C)
次期繰越正味財産額	300,055	(B)-(C)

第3号議案 令和4年度事業計画

令和4年度も引き続き、本会の目的を達成するため、主に以下の事業を実施することとしました。

- ①舞鶴古写真展その2(アトスペース973)5月6日(金)~5月12日(木)実施済、舞鶴古写真展その3(秋予定) ②市外視察旅行(京都市)5月31日(火)実施済、③赤煉瓦ネットワーク大会参加(開催地等未定)、④倶楽部会報の発行。その他

第4号議案 令和4年度事業会計予算 以下の通りです。

収入の部

科 目	金 額 (円)	備 考
1 会費収入	40,000	個人42名 前納2名
2 事業収入	840,000	市外視察、海軍レシビ販売等
3 寄付金等収入	30,000	募金、寄付金
4 雑収入	1,000	受取息
当期収入合計(A)	911,000	
前期繰越正味財産額	300,055	
収入合計(B)	1,211,055	

支出の部

科 目	金 額 (円)	備 考
1 事業費	381,800	市外視察旅行、冊子印刷等
2 管理費	690,400	海軍レシビ・会報印刷、交通費等
—	—	—
—	—	—
当期支出合計(C)	1,072,200	
当期支出差額	-161,200	(A)-(C)
次期繰越正味財産額	138,855	(B)-(C)

昨年10月開催の海軍時代の舞鶴古写真展の第二弾として、本年5月6日から12日までの7日間、「アートスペース973」で開催しました。

明治34（1902）年10月の舞鶴鎮守府設置と前後して「造船廠」が置かれ、明治36年11月に「舞鶴海軍工廠」に組織改編され、駆逐艦建造の中心を担いました。大正12（1923）年4月にワシントン軍縮条約で一時期工作部に格下げとなりましたが、昭和11（1936）年7月に海軍工廠に復帰し敗戦まで駆逐艦・水雷艇などを建造しました。敵の大艦を襲撃す

るための水雷艇からの攻撃を防御するため、大型で強力な水雷駆逐艦が建造されましたが、後に駆逐艦と呼ばれました。

今回の展示は、海軍工廠の古地図・航空写真、ドックでの建造写真、艦船の進水式写真、進水式の前絵葉書集、工場内建物の写真、吉田初三郎作の絵図、海軍工廠ゆかりの造船所の沿革、建造艦艇の一覧などをパネル展示しました。以下、会場の展示状況を報告いたします。



会場「アートスペース973」



写真・パネル展示及び冊子・資料展示状況



艦艇進水式写真



第2ドック（現在は大型船建造のため拡張され両側の石積みは撤去、一部の護岸石は、赤れんがパークに移動し展示されている）



進水式時に発行の絵葉書集のパネル展示状況



来館の造船所のOBらから説明を聞く



「明治37・38年日露戦役第壹回海軍記念日」絵葉書

3. 赤煉瓦倶楽部舞鶴の京都視察旅行報告

理事 小野 章

令和4年(2022)年5月31日に赤煉瓦倶楽部舞鶴主催の京都市内の視察旅行を実施しました。前回は令和元年7月の大山崎近辺の視察旅行でしたが、その後の新型コロナ禍で3年ぶりとなる視察になりました。

早朝にバスで舞鶴を発ち、10時に京都市京セラ美術館着、大幅な改装を終えた同館で折から開催中の「ポンペイ展」でベスビオ火山の灰に埋もれていた古代ローマの出土品等を参観しました。外科用具や宝飾品等は現代でも通用するような感じです。

昼食後疏水沿いの歩道を歩き、京都市琵琶湖疏水記念館を訪問、5年をかけて明治23(1890)年に竣工し、近代の京都市発展のエネルギー源となった疏水

の工程と意義を学びました。その後関電蹴上発電所を右手に見ながら歩き、インクライン下のトンネル「ねじりまんぼ」に到着、上を通る船と貨物の重量を支えるためのねじれた形の煉瓦積みを観察しました。

次に南禅寺境内に入り塔頭の天授庵を訪問、同庵のご配慮で舞鶴にもゆかりある細川家並びに熊本藩士・横井小楠と丹後由良出身の蘭学者・新宮涼庭の墓所にお参りました。また、同庵の新緑に映える庭園を堪能、しばしの休憩を味わいました。最後に南禅寺境内奥に架けられた古代ローマ風の煉瓦の水道橋「水路閣」と上を流れる疏水を視察して帰途につきました。なお、本視察は「きょうと魅力再発見旅プロジェクト」を活用し実施しました。(参加者23名)



大改装なった京都市京セラ美術館で



京セラ美術館の日本庭園を望む



琵琶湖疏水記念館を望む



疏水インクラインに立って往時を偲ぶ



インクライン下の「ねじりまんぼ」入り口にて



「ねじりまんぼ」の中を覗く



南禅寺塔頭「天授庵」の庭でしばしの休憩



南禅寺境内の「水路閣」前での参加者一同

本年2月にNHK・BS新日本風土記「北上川」で宮城・岩手両県の2か所のハリストス正教会信徒を取材していましたが、東北地方によく正教会建築が見かけられる理由に、ニコライ主教が特に維新後賊軍とされた仙台藩・盛岡藩などで力を入れて布教したとの説明がなされていました。

さて、放送画面に一関ハリストス正教会(昇天聖堂)の画像が出て驚きました。この建物が、以前ロシア正教会建築を調べた際に写真で見た白海沿岸のカレリア共和国に残る木造の教会建築にそっくりであったからです。この地方のオネガ湖のキジ島にある高層の木造教会はユネスコ世界遺産に登録されていますが、その周辺にある小さな聖堂を想起しました。

ネットの解説では、一関正教会の聖堂は「フィンランドから輸入されたログハウスの聖堂・教職舎が1990年に建てられた」とあります。また、明治・大正時代の正教画家・山下りんの「12大祭」や聖人のイコンがあるとの説明です。フィンランドはロシア革命後にロシア帝国領から独立しましたが、現在もロシア正教の信者が一定数いて、新しい教会建築も見られ

ます。写真を見ると、ロシアのカレリアに残る木造聖堂に酷似しています。一関の正教会に照会したところ、聖堂は当時の神父の知り合いのフィンランド人神父の仲立ちで輸入されたとのことでした。

さて、昔テレビのアラスカ取材番組で、正教会の木造聖堂が画面に出てきましたが、1867年にロシアがアラスカを米国へ720万ドルで売却した後に、現地に残ったロシア系住民の子孫がその後「アメリカ正教会」の信徒になっているとの解説でした。

アラスカから海岸沿いに南下したロシア人は、1812年サンフランシスコの北80kmにロス砦を築いて1841年まで交易などを行いました。米国の歴史的建造物に指定されたこの砦の聖ニコラス聖堂(1970年焼失73年復元)の画像を見ると、上記に挙げた聖堂の形式を踏んだものと推察されます。

ところで、仮にここまでの地域をロシアが版図として確保、19世紀早くに北米西海岸をスペインと南北に分割し合衆国の太平洋進出の障壁にしていたら、世界そして日本の近現代史もだいぶ変わっていた可能性があると思いを逞しくします。(写真はwikipediaより)



一関正教会の昇天聖堂（1990年）



オネガ湖キジ島の礼拝堂（17～18世紀）



フィンランド正教会の聖堂（1987年）



ロス砦 (Fort Ross) の聖ニコラス聖堂

※ 赤煉瓦倶楽部会報ではありますが、あえて「木造建築」を掲載しました。10世紀までのロシアの教会は全て木造でしたが、その後現れた煉瓦造りの教会は、かつての木造教会の意匠・様式を基盤として造られており、歴史的に継承が見られます。

舞鶴には軍港時代、新人の海軍軍人を養成する機関が二つありました。セーラー服を着た新人水兵を養成する「舞鶴海兵団」と機関科士官を養成する「海軍機関学校」です。「まいづる海軍がっこうぐらし！」では、その当時の新人軍人達の生活を紹介します。

○連載第3回は舞鶴海兵団での手漕ぎボートの訓練風景

これらのボートは「短艇(タンテイ)」と呼ばれ、現在の海上自衛隊の初等教育でも訓練として用いられています。経験者曰く、短艇は漕ぐための「かい」を全員で息を合わせて漕がなければ前に進まず、手や臀部の皮は摩擦で破れ、体力がなくなると「かい」は波に流されるなど訓練の中でも特に思い出に残っている訓練だそうです。



6. 会費納入のお願い

会長 吉岡 博之

日頃会員の皆様には、当倶楽部の活動に多大なご支援・ご協力を賜り、誠に有難く厚くお礼申し上げます。

さて、すでに令和4年度の活動を始めておりますことから、皆様には何卒当年度の会費について納入を頂きますよう会報の紙面を通じて失礼ではありますが、お願い申し上げます次第です。

編集後記

疏水のトンネル「ねじりまんぼ」の祖型は、16世紀フィレンツェの或る橋に遡るともいわれるが、この町で15世紀前半に完成した「花の聖母マリア大聖堂」のクーボラの矢筈積み煉瓦構造も想起できる。これを手掛けたブルネレスキは10年間ほどローマの遺跡を研究して歩き、その設計に至ったという。ルネサンスとは、先人の残した遺産の上に新しいものを創造することであろうが、琵琶湖疏水施設に古代ローマ人の遺産が間接的にせよ伝えられていると想像するのは楽しい。何より南禅寺水路閣の機能も形状も、古代ローマの水道橋に酷似しているではないか。今回の京都視察では、劈頭から「ボンベイ展」で古代ローマの水道/バルブに出会うなど、2千年を経た水利の歴史遺産の伝承・創造を実地に感じ取れる内容だった。(写真) ボン・デュ・ガール(古代ローマの水道橋) wikipedia



本会の目的(要旨)：赤煉瓦を活かしたまちづくり活動、赤煉瓦ネットワーク交流と他市のまちづくり支援など。

会員の資格：会費納入者 年会費(個人1,000円、団体5,000円)。ご寄附も受け付けます。

会費・寄付等 振込先：①ゆうちょ銀行 四四八店(ヨンヨンハチ店) 普通 3679505 口座名義 アカレンガクラブマイツル

又は ②京都北都信用金庫 舞鶴中央支店 普通 口座番号 0686767 口座名義 アカレンガクラブマイツル